



2022年3月期(81期)
通期決算説明資料

2022年5月13日

石井食品株式会社
(東証スタンダード:2894)

イシイの
本気は、
裏に出る。

2019年3月期以来の黒字転換

新型コロナウイルス感染症の拡大により、
お客様の食に関するライフスタイルは変容し、消費行動は急激に変化しております。
また、生産現場の3密回避や感染者増加時の生産体制など、食品製造の在り方にも大きな変化が
求められています。

また、2021年度については、菜種油などの原材料価格の高騰は年度を通して予測を上回って推移し、
期中には原油価格の高騰に起因する水道光熱費や燃料費及び包装材料の価格も上昇するなど、
非常に厳しい経営環境となっております。

このような環境のもと、**営業体制の刷新**により、ミートボールやとりそばなどの定番商品の提案バリ
エーションの多様化や、地域ハンバーグを中心とする地域商品の拡大に加え、
全社でのコスト削減に取り組んだ結果、2019年3月期以来の黒字を達成することができました。

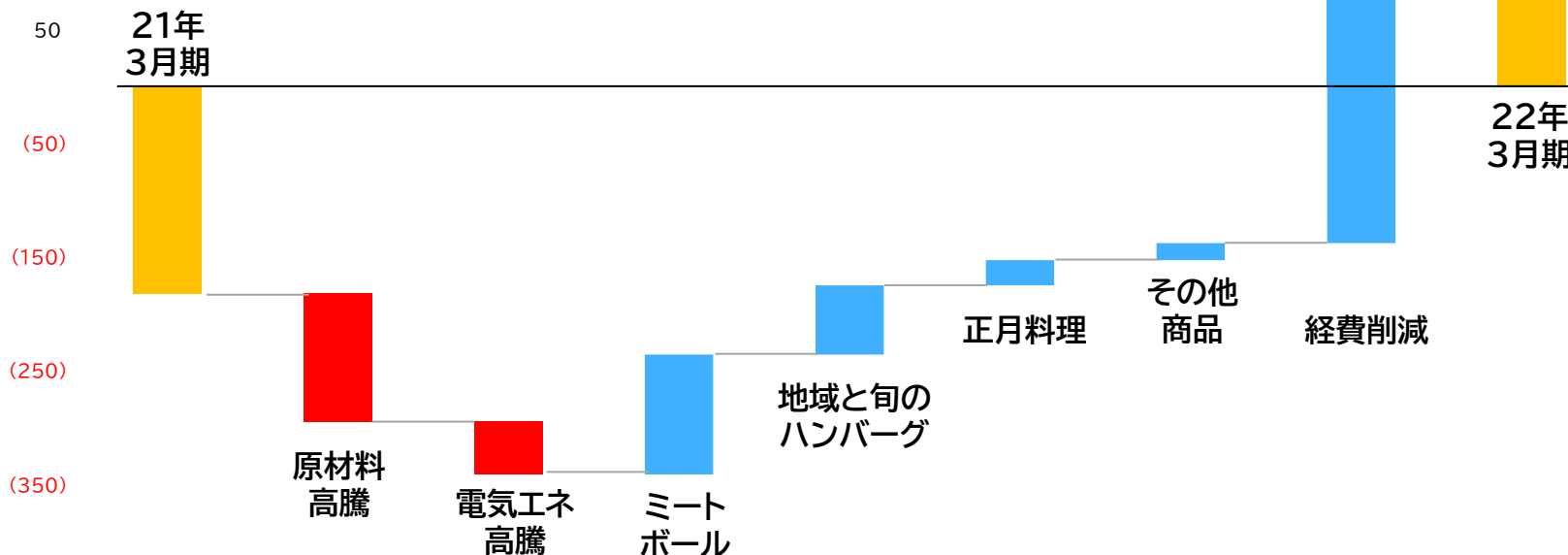
2022年3月期-連結業績

- (1) 売上高は88億円で約5億円の増収。
- (2) 売上総利益は28億円、原材料高騰を受けたが約3億円の増益。
- (3) 当期純利益は0.1億円で黒字転換。(前期は減損損失6.5億円を計上。)

	21/3期	22/3期	前差
売上高	8,307	8,831	+524
売上総利益	2,564	2,849	+285
営業利益	△182	78	+260
経常利益	△163	100	+263
当期純利益	△798	16	+814
EBITDA	160	315	+155

2022年3月期-営業利益

- (1) 前期営業損失183百万円から、今期は78百万円の黒字転換。
- (2) 原材料高騰で約1億円、電気料金及びガス等エネルギー費用は年度後半から高騰し約50百万円の影響。
- (3) ミートボールをはじめ、地域と旬のハンバーグ及び正月料理等の売上増加に伴う利益改善。
- (4) 原材料高騰等への対応として、全社で経費予算執行の徹底、コスト削減に取組み。



2022年3月期-商品群別実績 ミートボール

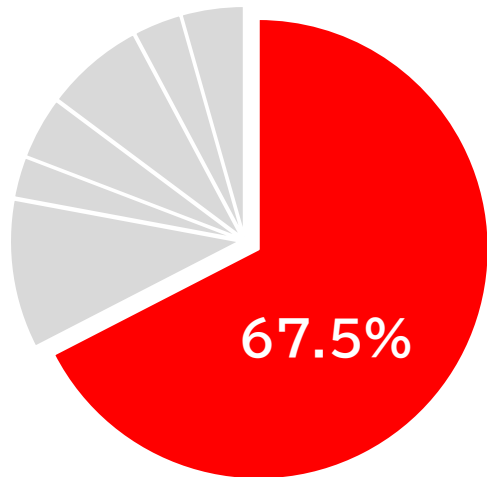
(単位:百万円)



	21/3期	22/3期	前年比	前差
売上高	5,778	5,958	103.1%	+179

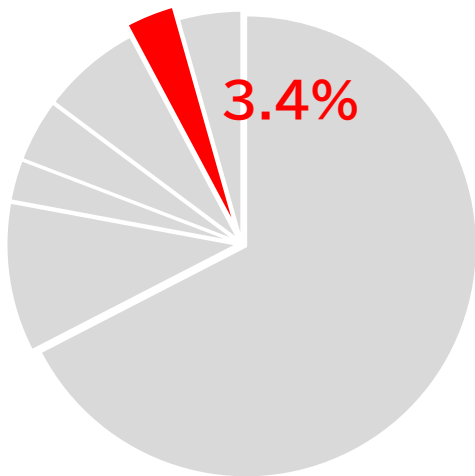
■トピックス

- ・ お弁当需要の回復により4月及び5月は前年比115%。
- ・ 営業活動のPDCAに注力し、内食需要の変化に合わせた売り場提案等を実施。
- ・ 「春のお弁当まつりキャンペーン」を行い、「はじめてのおべんとクンセット」を期間限定で発売。



2022年3月期-商品群別実績 正月料理

(単位:百万円)



	21/3期	22/3期	前年比	前差
売上高	228	296	129.6%	+67

■トピックス

- ・ 3密状況回避のため減産せざるを得なかった21年3月期から、生産体制を再構築した結果、増産が可能になり、売上増加。
- ・ コロナ禍に対応すべく個食タイプのお重おせち「迎春小箱」等を販売。
- ・ 「中川政七商店」とのお子さまと一緒に楽しむ新たな体験型のおせちの開発。



2022年3月期-商品群別実績 地域ハンバーグ

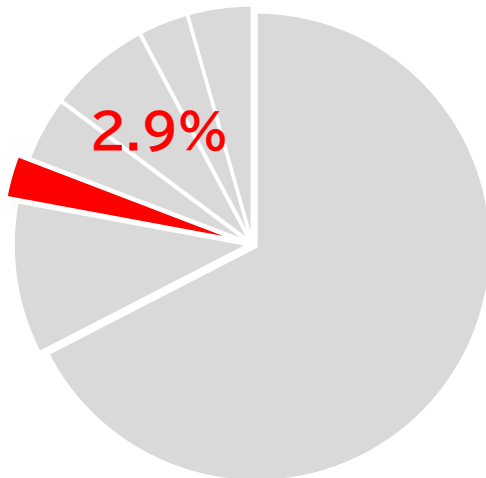
(単位:百万円)



	21/3期	22/3期	前年比	前差
売上高	147	251	170.1%	+103

■トピックス

- 旬の食材を生かした地域のハンバーグシリーズは、年間を通しての販売体制が整ったことにより、売り場の通年確保及び販路の拡大に成功。
- 西日本地域の食材を使用した新商品を発売するなど、取り引き地域も増加。



- (1) 現預金の減少は社債償還によるもの。自己資本比率は1.5pt改善。
 (2) 投資CFは無形固定資産(ソフトウェア)の取得による支出。財務CFは社債償還による支出。

	21/3期	22/3期	前差
現預金等	2,579	2,023	△556
資産合計	6,454	6,035	△419
有利子負債	2,120	1,746	△373
負債合計	3,811	3,477	△333
流動比率	125.6%	126.4%	+0.4%
純資産合計	2,643	2,557	△85
自己資本比率	41.0%	42.4%	+1.4%
営業CF	88	155	+66
投資CF	△120	△277	△157
財務CF	125	△434	△559

2023年3月期-通期業績予想

- (1) 売上高は当社主力商品の市場浸透率が低いエリアの開拓などシェア拡大を図る。
- (2) 原材料価格やエネルギー価格のさらなる高騰により製造コストは上昇見込み。
- (3) 全社横断プロジェクトによるコスト削減活動を強化し収益改善に取り組むが、足元での急激なコスト増を吸収できるかどうかは不透明な状況。
- (4) 今後も様々な要因で変動する可能性があるため、業績予想について修正が必要となる場合は速やかに開示予定。

	22/3期	23/3期	前差
売上高	8,831	9,252	+421
営業利益	78	△93	△172
経常利益	100	△66	△167
当期純利益	16	△105	△122

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料(業績予想を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいて弊社が作成したものでありますが、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なることが起こります。